

「アスリートビジネス パーソン」の育成を!



中田 仁之
なかた ひとし

【日本営業大学学長
(一般社団法人S.E.A代表理事)】

元アスリート……。この言葉を聞いて皆さんは、どのような印象を持つでしょうか?

信じられないような高い年収をもたらして、さぞかし悠々自適な生活を送っているように思うかもしれません、そのような人はほんの一握り。大半の元アスリートは日々の生活に四苦八苦しているのが現状です。

例えば、元プロ野球選手の引退後の選択肢は主に2つです。1つはコーチなどの野球の道に進むか、もう1つは事業を始めるかです。そのうち後者については、野球に人生を捧げてきたこともあって、ビジネスの基本はもちろん、社会のルールを知

らないために、成功するケースは極めて少ない。しかし、彼らをサポートする仕組みは国も整備していないのです。

いま、アスリートのセカンドキャリアという社会問題がクローズアップされています。2020年の東京五輪の代表選手を目指し、数万人が練習に励んでいると言われています。しかし、代表選手に選ばれるのは、ほんの一握り。アスリートは10代から20代がほとんど。では、落選した多くのアスリートの将来はどうなるのでしょうか。

そんな元アスリートにビジネスマナーや営業スキルなどの教育から就職先へのマッチング、就職後のケアや企業への定着までを支援する仕組みが必要ではないか。そういった課題認識から私が始めたのが「日本営業大学」です。20年4月、東京・大阪に開校する予定です。

遠隔地の受講生にはネットで受講も受け入れ、3カ月という短期間で教育し、早く社会に送り出すことによって、いち早

く企業人になってもらいます。約30人の講師陣には士業・経営者、営業のプロ、教育出身者などが名を連ね、受講生は自身の目的に応じて必要だと思う科目を受講することができます。

そもそも私が元アスリートのセカンドキャリアに問題意識を持ったのは、私自身の原体験があります。それは、とある元高校球児との出会いです。

名門高校でのレギュラー争いに勝ち残り、見事にレギュラーとして甲子園出場も果たしたのですが、スポーツ推薦で進学した大学の野球部に入学すると、彼はそこでのレベルの高さに愕然としてしまったのです。

当然ながら身を粉にして練習に励んだのですが、無名の高校から入ってきた選手に後れを取ったりして焦ってしまい、最終的には練習過多が原因で故障に見舞われることになってしまったのです。そして彼は20歳で大学を中退してしまいました。その後、飲食店などでアルバイトをしていたときに私と出会っ

たのです。そこで彼の言った言葉は忘れられません。

「僕の人生、20歳がピークでした」。私は「そんなわけがあるか! 競技人生は終わったかもしれないけれども、人生はここからが肝心だ!」。意識を変えた彼は改めて勉強を始めました。ここで私はアスリートの凄さを垣間見るようになりました。

目標ができたときの彼らの集中力です。頭もスポンジのように柔らかく、驚異的な吸収力で自らの眠っていた別の能力を開花させていったのです。もともと体力があり、PDCA(計画・実行・評価・改善)を回す能力に長けている。彼は今では企業の第一線で活躍しています。

元アスリートこそ人材不足や後継者不足に悩む中小企業で活躍できるのではないのでしょうか。アスリートのセカンドキャリアの仕組みが整備されれば、現役アスリートも安心して自らを鍛錬できます。「アスリートビジネスパーソン」を1人でも多く育てていきたいと思っています。